



広報

イキシア

2026年5月

101号

イキシアには「団結して事にあたる」という花言葉があります。やっとな心を集めるようになったこの精神保健の分野に理想の福祉を実現する為にあなたの知恵と力をお貸しください。



柏下拠点

高田拠点

すくすくハウス

本部拠点

千葉拠点

長生拠点

『序章の始まり』

理事長 寺田 一郎

四月から始まる二〇二六（令和八）年度。ワナーホームは新しい運営体制で臨みます。イキシアでは過去に何度も理事長の交代に合わせた新体制への移行問題をとり上げてきました。

「チーム作り」を通して「属人的経営から組織的経営へ」ということを繰り返してお伝えしてきました。実はこのことは法人運営という視点からは、かなり前から取り組んできたことでした。千葉県内を本部（山武圏域）、千葉（千葉市緑区）、長生（茂原市）、柏（柏市）の四拠点に分けてそれぞれに統括施設長を配置して、運営を任せるといふやり方です。

施設長研修会では、くり返しその覚悟を迫りました。統括施設長全員と個別に面談もしました。その結果、幹部たちは自分の仕事に真摯に取り組むという姿勢は強く感じましたが、理事長の交代に大きな不安を感じているということもわかりました。重要な決断をするとき、ちよつとしたことを進める時、「それでいいよ」という後押しを必要としていたのです。

新体制の特徴は、統括施設長にかなり大きな権限を委ねることにあります。理事長は統括施設長会議を開催しますが、会議は二つの機能を有しています。理事長の方針（決定）を支えることと同時に牽制する役割です。不安の中で決断することはトップの宿命とは言え、孤独で不安です。統括施設長たちの視点で吟味することは決断を後押しすることになります。また、時には判断について見直しを迫ることもなるかも知れません。「支持と牽制」とどちらも大切な機能です。

では最高の権限を有する統括施設長を支え牽制するのは拠点会議メンバーです。また、施設長と事業所会議の関係にも当てはまります。これがチームの力による運営体制です。権限移譲の根幹とも言えます。

序章の始まり

その新体制を牽引する役割は大久保夏樹（高田拠点統括施設長）に託すこととなりました。正式な手続きは来年になりますので二十六年度は試行期間となります。この試行期間中に新体制での課題を抽出しその解決を図るという方針です。ひとつだけ懸念することは社会心理学が指摘する「集団的浅慮」ということです。「集団意思決定の場において、メンバーの個人的決定よりも劣る決定がなされる傾向がある。集団の凝集性が高いとき起こりやすい」。仲良しグループに起こりやすいと言われておりますので各階層の会議がこれに陥らないことを願っています。

「人を管理する能力、議長役や面接の能力を学ぶことはできる。管理体制、昇進制度、報奨制度を通じて人材開発に有効な方

策を講ずることもできる。だがそれだけでは十分ではない。根本的な資質が必要である。真摯さである。」このドラッカーの言葉に對して、ワナーホームの職員たちは十分に応えることができると確信しています。

創設四十年を経て、今次の世代的序章が始まりました。世代交代のスケジュールがはつきりしたところで、今後この紙面を借りて、私なりの振り返りと思いを綴っておきたいと思つていきます。法人の経過の節目々々の出来事やエピソードについては『虹の約束』ワナーホームの試み』に譲ります。

東葛工芸センター

ワナーホームの経過を語るとき、東葛工芸センターを抜きにしては語れません。センターを開設した一九八一年当時は精神衛生法の時代。精神障害者の福祉施策は皆無で、精神病床数は三十一万人でこの数は後年三十四万人にまで増え続け、やがて社会問題となつて行きます。

制度がないことを嘆くより、現状でできることをしよう。当時を支えてくれた方々はここに共感してくれました。綱渡りの毎日でしたが、通所する利用者たちはすぐに利用方法を学びました。精神科病院を退院しても家に閉じこもっている精神障害者が、センターで知り合った者

同士で連絡を取り合い日曜日には「家から出て、遊びに行く」ようになったのです。

また、組織を株式会社としたことは、営利目的と見られるリスクもありましたが、数年後に実現した国の通院患者リハビリテーション事業では、株式会社ゆえに千葉県内で初の適用事業所となりました。思わぬ展開でした。また東葛工芸センターは貴重なデータを提供し、私たちにノウハウを提供しました。小さな活動は次のワナーホームへの序章ともなつたのです。

今、改めて当時の記録を読み返してみると、お世話になつた沢山の方々の顔が浮かびます。熱いものがこみ上げてきます。私を四十年にわたつて支えた原点がここにありました。



二〇二六年度事業計画

本部拠点 (居住系事業所)



施設長
野老 順子

新ホレブ寮・クロワール
シエスタ・ファミーユ
ノバハイツ白里・だいち

統括施設長として野老順子
を迎え、新しい管理体制とな
ります。

新ホレブ寮(ケア付き共同
住居)・クロワール(日中サー
ビス支援型グループホーム)
は平均年齢が約七十歳と高齢
化が進み、介護や健康に関す
る支援が中心となっていて、
入居者の中には肺炎などで入
院するケースも増えていま
す。職員は利用者の日々の体
調に細心の注意を払って支援
にあたっています。そんな中
でも季節を感じることで
き、地域との交流を意識した
プログラムを行っていき

と思います。

ファミーユ(グループポー
ム)は平均年齢が六十三歳と
新ホレブ寮・クロワールより
年齢が若く、身辺の自立度が
高い方が入居しており、個別
の面談やミーティングなど、
対話を重視した支援を継続し
て行います。

短期入所事業のシエスタと
ノバハイツ白里は、山武郡市
の地域生活支援拠点等事業所
として、昨年度も複数の緊急
の受け入れを行ってきました。
今年度も通常の利用の受
け入れと併せて山武郡市三市
三町の緊急のケースに対応し
ていきます。またシエスタは
病状が不安定で入退院を繰り返
すなど、グループホームで
の受け入れが難しいとされる
方を新ホレブ寮・クロワール
で培った支援スキルを活用し
て今後も受け入れていく予定
です。



者を迎え、新しい職員のチー
ム体制で支援にあたります。

ホレブ寮・ノバハイツ白
里・だいちのいずれの建物
も建築から年数が経ち、あ
ちこちに不具合が起きて修
繕に追われています。四十
周年を迎え、これからの各
ホームの支援のあり方や入
居者の動態などを見越して、
今後の修繕等の中期計画・
長期計画をしっかりと検討し
ていきたいと思

今年度はホレブ寮開設四十周
年を迎える年で、利用者と一緒
にお祝いをする記念行事を計画
しています。また、このイキシ
アで報告いたしますので、楽し
みにお待ちください。

本部拠点 (日中活動系事業所)



施設長
武藤 朱里

ホレブデイサービスセンター
パンプキンハウス
山武ブリオ



施設長
市東 達也

ワークショップしらさと
ワークショップおおあみ

(山岡)

しています。また、このイキシ
アで報告いたしますので、楽し
みにお待ちください。



職員の育成、ネットワー
クづくりのため、自立支援協
会や外部研修に積極的に参加
します。

【パンプキンハウス】

法人内を含む地域の他事業
所との連携を深め、効率的・
効果的な運営を目指します。
自立支援協議会への参加や認
定調査を積極的に実施し、地
域課題の把握を行います。

【山武ブリオ】

七月より民間事業主の障害
者雇用率が二・七％に引き上
げられます。情報共有を図る
ため、地域を対象とした会議・
研修の企画、運営を行い、企
業も含めた支援ネットワーク
の形成を図ります。

【ワークショップしらさと】

昨年度より開始した「就労
選択支援事業」は、特別支援
学校や相談支援事業所との連
携により、積極的に受け入れ
を行います。



(武藤)

就労移行支援事業や就労継続支援B型事業、就労定着支援事業は、それぞれの役割を果たし、利用者が適した支援を受けられるようにします。

【ワークショップおあみ】新規利用者の獲得、工賃アップを目指し、作業種目の見直しや新規作業の開拓を行います。ワンフロアの特徴を活かし、職員間で円滑なコミュニケーションを図り、一体感をもてる職場環境を目指します。

【ホレブデイサービスセンター】利用者の能力維持のため、プログラムを再編し、体を動かしたり、クイズなどで考える力を維持したりできるようにします。また、利用者の支援を統一できるように、支援の手順書や個別支援計画書を活用します。利用者が安心して過ごせるように、個別支援会議では利用者の意向に沿った支援内容を確認します。

山武郡市 障がい者基幹相談 支援センター



さんサボ

センター長
山岡 功平

今年度は新しく入社した職員や、他事業所からの職員が異動で加わり、チームの顔ぶれが大きく変わりました。

昨年度は山武郡市の「地域生活支援拠点等事業」において、ワーカーホーム以外の法人の協力も得られたことで、ご家族の急な病気等で緊急を要するような案件にスムーズに対応ができました。対応件数も十五件（前年の倍近く）に伸びています。

年度後半に始まった「就労選択支援事業」についても、山武圏域の事業所と特別支援学校や相談事業所と定例で会議を開いて、主に高校三年生へのサービス提供を調整することができました。

いずれもワーカーホーム単体でなく、地域の関係機関同士が協力し合うことで、地域の課題やニーズに応えること

ができてきているのだと感じます。これらの取組は、千葉県基幹相談支援センター連絡会や、県主催の市町村向け研修会でも報告する機会をいただき発表しました。今年度も事業所や法人を超えたチームで地域の課題に取り組みたいと思います。

(山岡)

長生拠点

ぶらりワークショップ茂原・長生ブリオ



施設長
高木 由佳

長生地域生活支援センター



施設長
橋本 義隆

長生拠点は、六拠点の中で一番コンパクトな拠点です。職員数（正職員十八名、パート十二名 計三十名）、四事業所九事業種を展開しています。

コンパクトさゆえのメリットは、職員同士の顔の見える関係性です。職員それぞれが得意なことを活かして、逆に苦手なことをフォ

ローし合える環境や体制を維持し、事業所間の連携を図ります。

また、五年後、十年後を見据え、次世代を担う職員の人材育成に注力いたします。法人内他事業所研修では、職場を離れ、他事業所の仕事を学びます。自分のやるべき事や自身や事業所の課題を理解し、これからやりたい事のイメージ等を持ち帰ってきます。日々の○JTや研修、様々な経験をを通して、成長をする姿を見守っています。

今年度は、長生地域生活支援センターの建替え工事（二〇二七年度完成予定）に向けて、本格的に準備を進めます。そして、二期工事として、ワークショップ茂原作業棟の建替え、新規事業の計画を進める予定です。

○長生地域生活支援センター

二〇二五（令和八）年十月、ちようせい広域障害者基幹相談支援センター（長生村を除く長生圏域一市五町合同設置・社会福祉法人ウイズ受託）が設置されました。委託相談の役割を整理し、基幹センターとの役割の違いを地域に浸透させます。また、地域生活支援拠点事業の議論が開始されます。当事業所を地域生



活支援拠点の相談事業として位置付けるか等、地域での役割を検討します。

○障害者就業・生活支援センター長生ブリオ

関係機関と緊密な連携を図り、障害者雇用の専門機関としての役割を果たします。

○ワークショップ茂原

ページブル茂原店では、顧客を飽きさせないための新商品の開発や宣伝に力を入れます。

昨年十月に開始した就労選択支援事業では、職員のアセスメント力を高め、関係機関と連携し、信頼を獲得します。

○ぶらり

食生活のアドバイスや適度な運動等、健康的な生活に対する意識づけを継続的に行います。また、これからの生活

をイメージし、自立度を高め、ステップアップできるよう支援します。
(高木)



千葉拠点

フジエール
ワークショップ兼取
鎌取相談支援センター



施設長
末永 慎介

【事業運営方針】

千葉拠点グループホーム
(仮称)及びペジューブル兼取
(仮称)新築工事は二〇二六年十月下旬に竣工予定で工事が開始となりました。千葉拠点新規事業プロジェクトの最終年度となり、完了に向けて

実行してまいります。運営面において、自事業所の役割を職員一人一人が認識し事業運営してまいります。運営管理体制の強化として、職員の異動を行い、多くの経験を積み今後の拠点を支える人材を育成してまいります。
(千葉拠点新規事業プロジェクト)
○整備目的
拠点機能を充実させ、下総精神医療センターとの連携を強化し、地域移行の促進を図る。
○内容
・相談支援事業所の移転
・共同生活住居(新設)
・就労継続支援B型事業(パン店舗・工房の増設)
【鎌取相談支援センター】
①千葉拠点新規事業プロジェクトの完成する年度となり、事業所が移転(下総精神医療センター研修棟隣)します。
②中核的な役割を担う相談支援事業所として、地域に貢献します。
③職員の資質向上・事業所としての体制の強化に取り組みてまいります。
【ワークショップ兼取】
ペジューブル兼取の新規店舗OPENに向けて、忙しい一年になります。
運営面では、平均賃月額三万五千円超え基本報酬額が上が

る予定です。しかし、令和八年度臨時報酬改定の対象となり、大幅に基本報酬額を上げることができませんでした。
利用者支援において、二名が就職することができました。引き続き、定期面談やモニタリングで利用者のニーズを把握し意向に沿った支援を行い、就職に向けモチベーションを高める関わりをしていきたいと思えます。

千葉市緑区は、就労継続支援B型事業所が増え激戦区になってきています。基幹相談支援センターや近隣の相談支援事業所への営業や送迎ルートの見直しを行い、新規利用者の確保に力を入れて行きます。
【フジエール】

千葉拠点新規事業プロジェクト最終年度となります。新

特別大護摩厳修



ホーム開所に向けて、兼取相談支援センターと連携し、下総精神医療センター等からの精神障害者地域移行候補者を検討し体験入居を進めていきます。

利用者支援は、四名が三年間の利用期限を迎えます。一人一人のニーズを吸い上げ、次のステップアップができるように支援していきます。新ホーム完成もあり、新規入居者の体験利用の受け入れをしていきます。
(野老順)



柏下拠点

エクラス
わたげワークス
たんぼぼセンター



施設長
上野 泰典

ペジューブル柏
地域活動支援センター
たんぼぼセンター



施設長
小助川 左代

柏拠点(柏下)は、障害のある人が住み慣れた地域で安心して暮らし続けるための中核的な仕組みである「地域生活支援拠点」を柏市より受託しています。相談支援、日中活動支援、就労支援、居住支援が相互に連携し、地域生活支援拠点機能を十分に発揮できる体制づくりを整えます。
【たんぼぼセンター】

安心して相談できる場所、仲間と過ごしてホッとできる居場所を作ります。地域生活支援拠点の機能を担います。
【エクラス】
自分らしく暮らせるような場所づくり、生活を一緒に考えるサポートを行います。



【わたげワークス/ページブル柏】
 はたらきたい想いを実現できる
 ようサポートします。また、運営
 するベーカーリーとカフェ
 (PAISIBLE)は、食を通
 じて地域に幸せの種を届けます。
 二〇〇六年八月のたんぽぽ
 センター開所以来、今年で二
 十年を迎えます。現在は約五
 十名の職員が配置され、職員
 の定着も進んでいます。今後
 は、拠点内の連携強化と職員
 の支援力向上を図り、柏下拠
 点の更なる充実を目指します。
 二〇二五年に柏市内の障害
 者グループホームにおける支
 援のあり方が社会的にも問わ
 れる事案が発生しました。利
 用者の権利擁護や虐待防止の
 視点を持ちながら、日々の支
 援を振り返り、支援の質の向
 上に取り組みむことが求められ
 ています。以上を踏まえ、次
 の重点目標に取り組みます。



■事業の安定運営
 ① 拠点会議における意思統一と
 意思決定プロセスの明確化。
 ② 拠点全体および各事業所での
 事例検討会や勉強会の実施に
 よる支援の質の向上。
 ・施設長や主任による他事
 業所会議への参加や合同
 研修の実施など、拠点内
 連携の強化。
 ③ SNSの活用や総合パンフ
 レットの改訂による拠点広
 報の強化

■新たな事業への取り組み
 ① 地域生活支援拠点の機能拡充
 に向けた試行的取り組み(拠
 点コーディネート活用)
 ② ルミエール一階活用プロ
 ジェクトの推進(若年層向
 け支援の場づくり、地域交
 流の促進等)
 ③ わたげワークスにおける就
 労選択支援事業の開始
 (上野)

医療的ケアが必要であつても、重い障害があつても、誰もが安心して地域で育ち、暮らし、そして働き続けられる未来を目指して——。柏(高田)拠点の「すくすくハウス」は、開所から四年目の春を迎えました。昨年度は「あおぞら診療所かしわ」を開設し、福祉型短期入所を医療型へと転換し、地域の重症心身障害児者や医療的ケアが必要な方々の生活を下支えする体制を整えてまいりました。今年度はこの歩みをさらに進め、大きな柱として「グループホーム(エクラス大室(仮))」の新設に挑戦します。医療的ケアを必要とする子どもたち

高田拠点
(すくすくハウス)


 施設長
菊地 貴恵

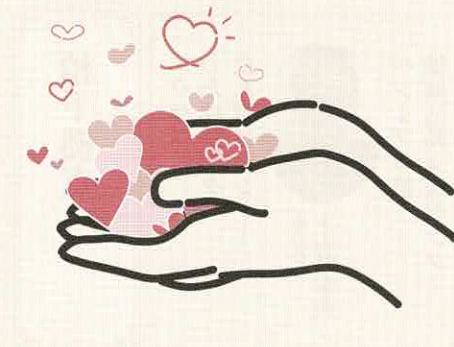

 施設長
大久保 夏樹

みつばち訪問看護ステーション・ヘルパーステーション
 ションそら・そらまめ

すくすく・ページブル高田・あおぞら診療所



が成長し、地域移行を進める中で直面する最大の壁は、親亡き後も安心して暮らせる「住まい」の不足です。私たちは、制度を適正に活用しながら、利用者の生活の質と持続可能な経営を両立させる居住支援の実践を目指します。
 あわせて、診療所にはNICU経験を持つ院長を週一回迎え、専門的なバックアップ体制を強化します。単に治療を行う場ではなく、ご家族やスタッフとの信頼関係を築き、子どもたちの育ちに伴走する「暮らしの拠点」としての機能を確立させる一年といえます。また、今年度から「すくすくカフェ」を定期開催します。かつて活動の原点となった「医ケアママサロン」の想いを受け継ぎ、孤立しがちな子育て世帯がほっと一息つき、家族同士が繋がれるコ



「医療的ケアを必要としても、安心してわくわくしながら育ち暮らせる未来をつくる」。このビジョンの実現に向け、スタッフ一同、様々な職種専門性と個性を生かしながら、私たちもわくわくしながら歩んでいきたいと思えます。
 (大久保)





昇格職員の紹介

よろしく
お願いします!



事務課長
長妻 雄太

このたび、社会福祉法人ワナーホームの事務課長を拝命いたしました。日頃よりご指導いただいている皆さまに、心より感謝申し上げます。ワナーホームに入職して十二年。これまで培ってきた経験を生かし、法人の安定した運営と職員が安心して働ける環境づくりに努めてまいります。特に今後は、将来を担う若手人材の採用を積極的に進め、組織の活性化と持続的な発展につなげていきたいと考えております。また、職員一人ひとりが力を発揮できる職場づくりを進めるとともに、地域社会から信頼される法人運営を目指してまいります。微力ではありますが、責任の重さを自覚し、誠実に職務に取り組んでまいります。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。



施設長
菊地 貴恵

今年度より施設長になりました菊地です。これまで支えてくださった皆様から心から感謝申し上げます。新しい立場になり、身の引き締まる思いですが、これまで同様、地域のニーズにしっかり応え、誰もが安心して暮らせる場所を守っていく決意です。現場で働く皆さんの悩みや困りを共に考えながら支えられる存在を目指して精進いたします。地域の皆様や関係機関の方々との絆をさらに深め、共に成長していきたいです。至りませんが、誠心誠意努めてまいります。どうぞよろしくお願ひいたします。

《リーダー》



梶野 亜希子
(高田拠点)



中村 奈津子
(高田拠点)

《主任》



吉越 麻美
(高田拠点)



杉岡 美穂
(高田拠点)



鈴木 千春
(本部拠点)



齋藤 聡美
(柏下拠点)

2025年度

研究発表

★本部拠点(事務チーム)

「障害福祉サービス費の現状分析と引き上げの可能性(〇〇のすゝめ)」

★本部拠点(次世代チーム)

「ICTとAIの業務効率化、支援の現場を変えていく」

★長生拠点

「長生プリオの在り方」

★千葉拠点

「君たちはどう生きるか」

「WSに求められること」

★柏下拠点

「生活支援を深掘りする」

★高田拠点

「訪問中の携帯端末活用が訪問看護業務の効率化と利用者満足に与える影響」



優秀賞

本部拠点
(事務チーム)

私達事務チームのテーマは

「障害福祉サービス費の現状分析と引き上げの可能性(〇〇のすゝめ)」です。〇〇に入る言葉は資格取得です。今回の発表で私達が一番伝えたいことは資格取得の重要性です。対象となる資格を取得した福祉専門職員を配置することや、専門的な研修を受講することで、より良い加算を取得することが出来ます。よって、福祉サービス費の引き上げが可能となります。さらに職員はスキルアップや増給、利用者は個別性の高い支援による生活の質の向上が期待できます。このように資格取得により三者それぞれに好影響をもたらします。みなさんもぜひ法人、利用者、そしてご自身のために資格取得を目指してみたいかがでしょうか。

貢献賞

柏高田拠点

今回、研究発表において貢献賞チームとして評価していただき、大変嬉しく思います。

私たちは、訪問中の携帯端末活用が訪問看護業務の効率化と利用者満足に与える影響」をテーマに研究を行いました。

初めての研究発表であり、慣れないデータ整理に苦労し、数値のまとめ方や分析の進め方に戸惑う場面も多くありました。また、日々の多重課題の中で研究を進めたため、後半になるにつれて締め切りに間に合わなくなりそうなることもあり、計画的に進めることの大切さを実感しました。

しかし、少人数の事業所で相談しやすい環境があったことで、互いに意見を出し合いながら役割分担し、協力して取り組むことができました。

この経験で得た学びを、今後の業務改善や効率化に活かし、より良い看護の提供につなげていきたいと考えています。今後も継続的に改善を重ね、質の向上に努めてまいります。(根本)

虐待防止及び身体拘束等の適正化 研修報告

●本部・長生・千葉拠点

実施日：二月三、十七、二十四日

今回の虐待防止研修はロールプレイを交えた研修でした。

まず私を含め三名で虐待となる面談のロールプレイを行いました。ロールプレイの演者に選ばれたと聞いた際は役になり切れる不安でした。というのも外部研修へ参加した際にはロールプレイで様々な役を演じましたが、法人の研修でロールプレイの演者することは初めてであったからです。緊張しましたが何とかやり切りました。その後、ロールプレイを基に各グループで虐待とならない面談を考えロールプレイを行いました。

非常勤職員も多く参加していた研修であったため、普段面談をしたことがない職員に対してはロールプレイを取り入れることでイメージがわかりやすい研修になったと感じました。



(矢部)

●柏下・高田拠点

実施日：二月四、十六日

法人で毎年実施されている虐待防止研修に参加し改めて支援のあり方について考える機会となりました。

今回の研修では、ロールプレイを通し、言葉のかけ方・態度によって相手が威圧感を感じることを体験的に学びました。

悪気がなくても相手にとつては不安や恐怖に繋がる可能性があると感じました。

また、虐待は突然起こるのではなく日々の関わりで小さな違和感や変化に気づくことが大切だと感じました。利用者の些細な変化に目を向ける姿勢を大切にしたいと思えます。職員同士が気づいたことを言い合える関係性や支援を振り返る職場の環境づくりが虐待防止に繋がると感じました。

研修を通して得た気づきを日々の支援の中で意識しながら実践していきます。



(内木)

20歳のお祝い



ペジューブル高田に通う十三名の利用者の「二十歳を祝う会」を一月三十一日に開催しました。一筆ずつデザインして完成させた作品を使用し、素敵なランチョンマットを制作。二十歳の記念品としてプレゼントしました。職員も利用者もみんな同じ料理を楽しみながら、利用者の成長を感じる和やかな時間となりました。
(三田)



職員の休日のコマ!

休日ハンターと山のヌシ ペジューブル柏 杉岡 篤哉 巨大な黒い塊が木から降り始めたと同時にとっさに私は引き金を引いていました。



そのまま見逃してその場から逃げ去るかこちらに向かってくるかは五分五分、考える余裕はありませんでした。ドサツと木から落ちた巨熊は木の根元にうづくまり頭を抱え悲痛な顔を

をしてこちらを見ています。「ごめん」と心で思いながら二の矢を入れます。弾を首に受けた巨熊は斜面を転がっていきました。食物連鎖の頂点に立っていたであろう森の王者に突然訪れた最期でした。



ワナーホームの主な動き

《一月》

- ・お餅つき会(すすくくハウス一階多目的ホール) / すすくくジャンプ・ステップ・ホップ
- ・初詣(諏訪神社) / すすくくジャンプ・ステップ・ホップ
- ・新年会&初詣(大鳥神社、オリーブの丘) / 地域活動支援センターたんぼぼセンター
- ・初詣(諏訪神社) / ペジブル高田
- ・二十歳を祝う会(諏訪神社) / ペジブル高田
- ・初詣(白子神社) / ホレブデイサービスセンター
- ・初詣(橋神社、あられちゃん家、ニューラッキー食堂) / ワークシヨップしらさと
- ・初詣(玉前神社) / ワークシヨップ茂原
- ・初詣(駒木 諏訪神社) / わたげワークス
- ・エクラササロン クレープを作ろう(北柏Iリビング) / エクラス
- ・初詣(千葉厄除け不動尊、あられちゃん家) / フジエール
- ・初詣(玉前神社) / だいち

《二月》

- ・冬レク外出(カラオケを楽しむ) / (うたき新茂原店) / ぶらり

《三月》

- ・ポッチャ大会(すすくくハウス二Fホール) / すすくくハウス
- ・豆まき(介護棟) / ホレブデイサービスセンター
- ・生活支援プログラム(受注室) / ワークシヨップしらさと
- ・千葉県障害者就労促進チャレンジ事業 企業向け見学相談会(日本ウエックス株式会社 東金事業所) / 山武プリオ
- ・山武圏域自立支援協議会 第四回就労部会(九十九里町 中央公民館) / 山武プリオ
- ・水災害避難訓練 / だいち

《四月》

- ・春レク外出(お花見と買い物と食事) / お花見(豊田川沿い) / 茂原公園ルート) / ぶらり
- ・お花見(手賀沼サイクリングロード) / 地域活動支援センターたんぼぼセンター
- ・ハートフルメッセin柏 外部販売(イオンモール柏店) / ペジブル柏
- ・ひな祭り(介護棟) / ホレブデイサービスセンター
- ・北柏町会主催 防災訓練 / エクラス
- ・辞令交付
- ・新人研修



**ホームページ
リニューアルしました!**

<https://www.wanahome.or.jp>

- ・入社式(すすくくハウス二Fホール) / ペジブル高田
- ・すすくくハウス春祭り外部販売(すすくくハウス) / ペジブル柏
- ・お花見(尼ヶ台総合公園) / ホレブデイサービスセンター
- ・お花見(大堀川遊歩道) / わたげワークス
- ・お花見イベント(柏下一号館 裏大堀川土手) / エクラス
- ・お花見(市原市ちはら公園、ユニモ) / フジエール

イキシア入会のお願い

イキシア会は利用者とそのご家族及び一般有志からなるワナーホームの支援団体です。活動においてご理解をいただき、ご支援・ご協力を賜ります様宜しくお願い致します。

広報イキシアは年三回(一月・五月・九月)発行されます。

《会費》

- 賛助会員 三,〇〇〇円(年)
- 正会員 一〇,〇〇〇円(年)



収支決算書

自2025(令和7)年4月 1日
至2026(令和8)年3月31日
イキシア会 単位:円

支 出		収 入	
科 目	金 額	科 目	金 額
振込手数料	18,467	会 費	800,000
振込手数料 振込手数料 振込手数料	12,220	(116名)	
小 計	30,687	小 計	800,000
次期繰越	10,670,397	前期繰越	9,901,084
合 計	10,701,084	合 計	10,701,084

編集後記

二〇二六(令和八)年度がスタートして一ヶ月が経過しました。職員の異動があり、新たな体制で活動してまいります。今年度も、事業への取り組み、行事などの活動について報告していきたいと思っております。ご愛読よろしくお願ひします。

発行所 **ワナーホーム
イキシア会**
千葉県大網白里市細草3215

電 話 0475-77-2100(代)

U R L <https://www.wanahome.or.jp>

発行人 寺田 一郎